

【氏名】 崔徳孝

【所属大学院】（助成決定時） 東京大学大学院

【研究題目】 米国の対日・対朝鮮占領政策（1945～1948年）と在日朝鮮人問題

#### 【研究の目的】

これまで日本と韓国において占領史（GHQ／SCAPの间接統治期および朝鮮米軍政の直接統治期）に関する研究は数多くなされてきた。しかし、従来の研究は日本現代史あるいは韓国現代史という枠組みのなかで、米国の対日占領と対朝鮮占領を別個に分析してきたといえる。近年になり、両地域におけるある特定の占領政策の展開を「比較」する研究が登場し始めてはいるが（例えば、対政党政策や対左翼運動政策、言論検閲政策などがある）、対日・対朝鮮占領政策の「連動」もしくは「連関」という側面に着目して両占領史を有機的に接合した本格的な研究は、いまだ両国のなかで試みられていない。また、米国における占領史研究も、米国の戦後東アジア戦略という巨視的な視角から占領政策の転換を論じる研究はあっても（例えば中国情勢の悪化と「逆コース」の関連）、具体的にある占領政策の展開が両地域でどう有機的にリンクしていたものだったのかを明らかにした研究はないといえる。

本研究は、以上のような既存の占領史研究に対し、在日朝鮮人問題をめぐるGHQ／SCAPと朝鮮米軍政の政策の検討を通じて、これまで看過されてきた両占領政策の「連動」や「連関」という側面を明らかにすることを目的とするものである。

#### 【研究の内容・方法】

戦後、日本に残留していた約60万人の朝鮮人をめぐる諸問題が、両占領当局（GHQ／SCAPおよび朝鮮米軍政）にとって共通の関心事となっていた。当初、占領当局は在日朝鮮人を「解放国民（liberated peoples）」として規定し、同情的・友好的な姿勢を示していたが、徐々に日本の占領行政にとって有害な存在として、そして日本の治安および安全保障を脅かす存在として（一部を除き）規定し、敵対するようになっていった。このような占領当局の態度の変化について、従来の研究では旧宗主国という立場から在日朝鮮人を敵視していた日本政府の影響力を指摘しているが、本研究では朝鮮半島情勢および対朝鮮占領政策の変化との連動・連関から解明しようと試みた。

主に一次資料の収集とその解読を中心に研究を進めた。

占領当局の在日朝鮮人認識の推移や、朝鮮占領政策の転換と在日朝鮮人政策の変化との関連を明らかにするために必要な資料の収集から開始した。日本占領政策関係の一次資料の多くが日本国会図書館に所蔵されており（GHQ／SCAP Recordsなど）、また、朝鮮占領政策関係の一次資料は韓国で資料集として多く刊行されている（日本でも入手可能）。日本や韓国で入手できない一次資料に関しては、米国メリーランド州のNational Archivesで1ヶ

月間資料調査をおこなった。

資料の解読は、まず占領当局の在日朝鮮人認識の推移に関する部分から始め、占領期に在日朝鮮人問題がどのように議論され、どのような過程を経て認識が敵対的なものに変化していったのかを検討した。

資料読解の第二段階として、1947年から1948年にかけての朝鮮占領政策の転換がどのように在日朝鮮人政策の変化に連動したのかを考察した。特に、朝鮮米軍政が進めていた「単独政府」樹立に反対する朝鮮半島での政治闘争と在日朝鮮人の政治運動との連鎖に対し、占領当局がどのように対処したのか、換言すれば、米国の東アジア冷戦戦略との関連から在日朝鮮人問題にどのように対処するようになったのかを明らかにする作業を試みた。

#### 【結論・考察】

朝鮮半島で米軍占領に対する朝鮮人側の不満が高まり、また左派政治勢力と米軍政の対立が深まるにつれ、GHQ/SCAPの在日朝鮮人に対する認識も変化した。在日朝鮮人問題を日本の「security」を脅かす問題として認識するようになり、特に、朝鮮半島の左派勢力とつながりのあった在日朝鮮人連盟（朝連）の活動を国際共産主義運動の一環としてみなすようになった。GHQ/SCAPは、朝連の活動や朝連に関わっている人物に対する取締りを強化していったのであるが、その一例として、在日朝鮮人の強制送還の例があげられる。GHQ/SCAP文書の中には朝鮮半島に強制送還される朝鮮人に対する「嘆願書」が多く存在し、嘆願によって実際に強制送還を免れたケースがあった。私が発見できた資料のなかには、そのような嘆願を占領当局が拒否して強制送還に踏みきった例があったのであるが、釈放嘆願を拒否した理由として、占領当局は、その者が以前、朝連と密接な関係にあった在日朝鮮民主青年同盟や日本共産党の活動に関わっていたとし、「security」上の問題から釈放は認められないとしている。この例に典型的に見られるように、朝鮮問題をめぐって米ソ関係が緊張するにつれ、占領当局は在日朝鮮人問題に対し「冷戦」思考的なものの見方から対処するようになったのであった。